

令和3年度 五小コミュニティ・スクール（GCS）および地域連携についてのアンケート

- 1 実施 令和3年11月30日～12月7日
 2 回答数 133家庭（全家庭数235）…QRコード回答：100件／紙面回答：33件
 3 指標 A：そう思う B：ややそう思う C：ややそう思わない D：そう思わない E：分からない

No.	質問	A	B	C	D	E
1	福生第五小学校が、福生市よりコミュニティ・スクールの指定を受けていることを知っている。	72%	11%	2%	14%	
②	コミュニティ・スクールとして実施される地域連携の取組に、できれば参加したいと考える。	10%	32%	14%	16%	28%
③	地域連携の一貫であり、芝生管理の活動である『五小芝生の会』に、日程が合えば参加してもよいと考える。	14%	26%	17%	17%	14%
4	登下校の見守りや七五三挨拶ストリート運動といったGCSの見守り活動が行われていることを知っている。	59%	22%	3%	15%	
⑤	「水・防災訓練」は、GCSと学校が連携して、子供を含めた地域全体での防災意識を高めるために必要である。	64%	29%	1%	6%	
6	春・秋・冬の野鳥や自然の観察会、巣箱管理に関する活動について、GCSの支援を受けていることを知っている。	50%	17%	6%	6%	21%
7	野鳥や自然の観察会で、学んだり、体験したりしたことを子供たちは家庭で話している。	59%	26%	5%	5%	5%
8	GCS主催の教育活動支援としての「漢字検定」は子供たちの成長に生きている。	46%	30%	4%	2%	20%
9	学校だよりでGCSの取り組みを紹介することでGCSの取組について知ることができている。	35%	45%	7%	2%	12%
10	GCSだより（7月発行）は、GCSの取組を知っていただく上で効果的と考える。	34%	42%	5%	2%	17%

※ ○の番号の取組は、新型コロナウイルス感染症対策のため令和3年度に実施しておりません。

★いただいた主なコメント★

【野鳥観察会について】

- ・野鳥観察会や自然観察会がとても楽しかったようで、特に野鳥にとっても興味をもつようになりました。
- ・野鳥観察会の支援は特にありがたく思います。子供たちにとって生涯の財産だと思います。野鳥を通して自然や気候、国土など、今後興味が広がってほしいなと思います。五小の愛鳥活動を今後ともうけついでほしいです。
- ・子供が野鳥に詳しくなることがすごいと思うし、こちらも嬉しく思うので、これからも続けていってほしいと思う。いつも子どもの成長を見守り手助けしていただきありがとうございます。

【検定の実施について】

- ・いつもありがとうございます。漢字検定だけでなく、数学検定も実施していただくと嬉しいです。
- ・ぜひ、英検の実施も検討していただきたいです。

【参加について】

- ・GCSの活動内容が良くわからないのですが、興味はあるので参加してみようと思います。
- ・下の子が小さいので何も参加できませんがいずれは何か参加できたらなと思います。

【広報について】

- ・子供の手紙類だけでは昨今の情報量を伝えるにあたり不足していると感じます。もっとSNSや配付のiPadを通じた情報伝達を行うなど、GCSの活動も含め情報発信してほしいと思います。

【活動について】

- ・率先していつも活動していただきありがとうございます。
- ・多摩川沿いの自然豊かな土地を活かした活動、地域のいろいろな世代とのつながりが貴重な体験になっていると思います。今後とも宜しくお願いいたします。

令和3年度

～福生五小コミュニティ・スクール通信～

GCSだより

No.2 令和4年3月発行



「これって鳥の道具ですか？」

五小コミュニティ・スクール副委員長 野村 亮
 (NPO法人 自然環境アカデミー 代表理事)

11月に5年生のお米の学習で、唐箕(とうみ：風で米ともみなどを選別する道具)という道具を持ち込んでいた時に1年生から「これって鳥の道具ですか？」と質問を受けました。私に会い、鳥を連想した子供のかわいらしい問いかけに、心がほっこりとあたたかくなりました。お米の道具を「鳥」の道具と連想するのは、広い世界の中でも「五小の子」だからこそといえるのではないのでしょうか。そして、私に問いかけてくれる関係をうれしく思いました。五小の子は、私によく質問してくれたり、「野村さん」「野村先生」といってよく挨拶してくれたり本当にかわいいです。

私自身、小さいころから生き物や自然のことが大好きでしたが、「鳥」に関心をもったのは五小に入学してからです。鳥のしぐさや美しさに夢中になった思い出は今の自然環境アカデミーの活動や五小での支援の原動力となっています。



唐箕(とうみ)



タブレットで配信

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症のデルタ株やオミクロン株等により様々な活動を制限されました。人とのつながりが制限され、人間関係が希薄になったり、不安になったりすることもあります。そんな中、GCS(コミュニティ・スクール)委員・拡大GCS委員は、委員長の撰梅さんを中心に「あきらめずに前を向こう！」をテーマに、「五小の子」のために、様々な活動に取り組んできました。私は、三密を防ぐために学年ごとに野鳥観察会を行ったり、福生市教育委員会から貸し出されているタブレットを使ってオンライン学習している子供たちに配信したり(写真)とできることを大切にしてきました。

学校評価7番目「野鳥や自然の観察会で、学んだり、体験したりしたことを子供たちは家庭で話している」という御家庭が85%もあることやいただいたコメントの内容に活動の意義を感じています。今後も保護者の皆様とともに、「五小の子」のために、できることを大切に、共に活動していきたいと考えております。これからもどうぞよろしくお願いいたします!!!

「五小の敷居は低くなったのか」

福生第五小学校長 松下 正代

「学校は 敷居が高くて。」

かつて 学級担任をしていたころ 保護者の方から 指摘されたことがあります。耳の痛い言葉であり 申し訳ないなあと感じました。

「地域に開かれた学校」が 求められるようになりました。それは 地域や保護者にとって 学校の中が見えやすく、地域・保護者・学校が 子供たちを大きく包みながら「地域の子」として 見守り育てる場なのだと考えます。

その実現にむけ「学校の敷居を低くしてくれる」のがコミュニティ・スクールです。立場の違い、考え方の違いはあっても相互理解を進め 地域・保護者・学校が 知恵を出し合い 子供たちの成長に資する「何か」に向かい協働するのが五小コミュニティ・スクールです。

五小は コミュニティ・スクール4年目。お陰様で 確かな一歩を進めています。



イメージキャラクター「ゴツくん」

GCS委員会・拡大GCS委員会の取組紹介は五小のホームページや学校だよりで紹介していますので御覧ください。

【URL】<http://fussa-5e.hs.plala.or.jp/>

